

## 登壇者プロフィール

### 遠藤 愛氏（東京経済大学全学共通教育センター准教授）

- ・筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科体育科学専攻修了。博士（体育科学）。
- ・大学3年からプロテニスプレーヤーとして活動。バルセロナオリンピック日本代表。世界ランキング最高26位。



### 藤後 悦子氏（東京未来大学こども心理学部 心理専攻長 教授）

- ・筑波大学教育研究科修了、東京学芸大学連合大学院学校教育研究科単位修得満期退学。  
筑波大学にて博士号（学術）取得。公認心理師、臨床心理士、臨床発達心理士。
- ・立教大学、筑波大学大学院などの兼任講師を経て現在に至る。
- ・主な臨床及び研究分野は、①保育・子育て支援、②学校臨床、③地域スポーツの分野。
- ・スポーツ分野では親や応援席の視点を取り入れたハラスメント研究や、森田療法を活用したメンタルトレーニング、日本中学校体育連盟の研修講師やスポーツ団体でのペアレント教室、部活動指導員養成プログラムの開発等を行っている。



### 溝口 紀子氏（日本女子体育大学・大学院教授）

- ・埼玉大学大学院（教育学修士） 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程修了（学術博士）。スポーツ社会学者。柔道家。
- ・1992年バルセロナ五輪52kg級銀メダリスト。
- ・2002年日本人女性初のフランス五輪代表柔道チームコーチ就任。  
（五輪3大会出場：日本代表2回・フランスコーチ1回）
- ・2014～15年、静岡県教育委員長就任。現在、全日本柔道連盟評議員。TBSひるおび金曜日レギュラーコメンテーター。一般社団法人袋井市スポーツ協会会長。
- ・主な著書  
『性と柔—女子柔道史から問う—』河出書房新社 2013年。  
『日本の柔道／フランスのJUDO』高文研 2015年  
『オリンピックが生み出す愛国心』（共著）かもがわ出版 2015年  
『国際文化学の第一歩』（分担執筆）すずさわ書店 2013年

